

第5回協議会を開催しました

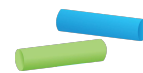
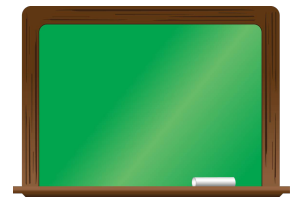


野津原中学校区
適正配置地域協議会

だより

第5号

平成27年3月



二月五日（木）の午後七時から、野津原市民センター大会議室において、第五回の協議会を開催しました。

議事一では事務局から「今後予想される日程（案）」の説明がありました。ここでは、二十七年後半ばまでに協議会で報告書を取りまとめ、教育委員会に提出することが提案されました。さらに、提出された報告書を基に教育委員会が「野津原中学校区適正配置実施計画」を策定するということや、実施計画に基づいて、二十九または三十年度に三小学校の統合完了を目指すとの説明がされました。

次に、あらかじめ校区ごとに協議した統合に関する意見や要望が発表されました。その中には通学の支援、学校の敷地や設備についての意見のほか、中学校を含めた将来ビジョンを見据えて地域の

要望を反映できるように協議を進めてほしいとの声がありました。

（詳細は一面に記載しています。）

発表内容を受けての協議では、「小学校のことだけでなく中学校の魅力を高め、地域の将来のことも考えた協議を行うべき」との意見が出されました。また、「二十七年の中頃までに報告書を取りまとめようとするのであれば、限定された期間の中で、回数を増やす必要もあるのではないか」などの意見も出されました。

こうしたことから、次回は「議事二 統合に伴う通学支援」に加え、協議会の実施回数についても、協議することとなりました。

（主な意見は三面以降に記載しています。）

次回は

四月三十日（木）開催

第六回の協議会は、平成二十七年四月三十日（木）、午後七時から午後八時三十分まで、野津原市民センター大会議室で開催します。

委員以外の地域の皆様にも会議の様子を実際に見て、聴いていただきたいと考えています。

各校区から発表された統合に関する意見(要旨)

【野津原東部小学校区】

- 通学支援に関しては通学距離が中部小の子どもより長くなる子や、福宗や辻原のように中部小学校区を通ってくる子について、何らかの配慮をしてもらいたい。
- 統合の時期によってはクラス数が7クラスになることもあるようだが、教室を一つ増やすにしても学校自体に教室が各学年一つずつしかない。
- 東部小は昨年グラウンドにプールを作ったため校庭が狭くなっている。
- 駐車場に関しても、保護者が送迎をするのであれば今のままでは足りないのではないか、といった学校の敷地や設備に関して、子どもの人数が増えた場合対応できるのかということに関しての意見も出ている。
- 育成クラブについても中部や西部の方は迎えに来るのが難しくなると思うので、帰りをどうするのかということも考えなければならない。
- 中部小・西部小の子ども達は東部小との関わりが結構あるが、保護者はそうでもない。保護者の方に、東部小の実際の様子を知っていただくために、オープンスクールの日には学校や授業風景等を見に来てもらうのもいいのではないだろうか。

【野津原中部小学校】

- 地域の方を交えて話をしたが、統合に反対との声もある。統合は仕方ないかもしれないが先を見据えてしっかり考えないと、本当に中学までなくなってしまうというような、踏み込んだところまで考えてくださっている方もいる。
- 実施計画を教育委員会で作るわけだが、その基となる報告書になるべく多く地域の要望などを盛り込んでおかないと、ふるいにかけてしまい、自分達の地域のやりたいことや思っていたことが落ちてしまうのではないかと、結果的に教育委員会の計画通りのものになってしまうのではないかと心配する声も出ている。
- 地域の意見をどれくらい入れられるかが鍵になってくると思うので、報告書に盛り込めるような校区の意見や要望をできるだけ出し、実施計画が地域の思いを反映したものにできるよう頑張らなければならないと思っている。
- 各校区で抱える問題は異なるが、一つの学校になるということを皆で考え、問題点等を拾い上げながら進めていく必要があるだろう。

【野津原西部小学校区】

- 今でさえ今市小校区の方はバスで通学しているので、東部小に統合されたときの通学方法はバスかタクシーという選択肢しかない。だから、バスであれば通常通り全額補助を、タクシーであれば子ども達が安全に乗り降りできる場所を指定してほしいと考えている。
- 今年もそうだが、児童数がかなり少なくなっており、今後減っていくことが懸念される。なるべく学校運営が困難にならないようお願いしたい。



第5回協議会における主な意見を掲載しています。
 (発言内容については、紙面の都合で要旨のみとしています。ご了承ください。)

○は委員の発言 ●は事務局の発言

【報告書について】

- 資料の日程案には、27年度の中期頃に報告書をまとめるとあるが、それまでに決まらないといけないのか。
- 協議の内容によって、時期がずれることはあるかもしれないが、秋から冬くらいにかけてまとめていただければと思う。
- 委員から校区の意見として出された校舎や運動場、駐車場といった学校の設備等に関する問題について、報告書の中にその他とかいった形で入れてもいいのか。
- 報告書は、今までの協議で出た要望だけが入ってくるものではない。統合の時期や方法、通学支援の方法といったものができたうえで要望が入る形になるので、まずはそちらを定めていただきたい。それが定まってから校区ごとのものでも、協議会として取りまとめられたものであれば、要望として入れることは問題ない。



【協議の内容について】

- 将来中学校がなくなってしまうのではないかという意見が出たとあったが、このままの状態ですべて統合したとしても、隣接校選択制や入りたい部活がない等の理由で野津原中学校に子どもが来ない場合がある。人数が少なれば子どものやりたいことはできないし、中学校に魅力がなければ子どもは来ない。このままだと子どもが減り、中学がなくなる可能性も高いので、そういったことについても考えて協議してほしい。
- 統合の時期・方法、統合に伴う通学支援、地域との関係等といったことについて協議会で合意形成を行い、報告書を取りまとめるということか。
- この会における協議内容として、統合された地域の子も達と住民との関わりができなくなることが予想されるので、その点についても協議していこうとなっていた。しっかり意見を出し、協議していただきたい。

- 統合の時期がいつになるかが、問題になるのは西部小校区ではないかと思う。来年度は2クラスになるという現実があり、統合は早い方がいいのではないかという思いもある。ただ早ければいい、というものでもないで、地域として将来のプランを見据えて、話し合わなければいけないと思う。
- 地域として、将来のプランを見据えて話し合いをしなければいけないと思う。地域の一番の不安は、中学校の子どもが減っているという現状であり、そのことを考えて、小中一貫教育校を作っては、という話もある。この協議会で協議する内容ではないが、要望として報告書に入れていかないといい。
- 学校がなくなると、一気に地域の弱体化が進んでしまう。小中一貫教育校が何年後にできるというようなことがあれば、地域に人が戻ってくるかもしれないので、報告書に盛り込んでいければいいのではないかと思う。
- 各校区それぞれの意見を出して話し合い、理想的な形にしていくというのが一番いいと思うが、ある程度委員が考えを言えるような権限を認めるというのは難しいのだろうか。ここで出た意見を聞いて、何か思っても言えず、地域に持ち帰ってまた次回に出すということの繰り返しで時間がかってしまうのでは。
- この場でお話しいただいているのは、各校区で話し合っていた結果だと考えている。ここでは校区の意見をまとめて発表し、他校区の意見について意見をいい、問題の一つ一つを解決していき、確認事項として積み重ねていきたい。地域の方々にはどういった経緯でどういった話をしているかを地域協議会だよりを通じてお知らせしている。



【協議会の日程について】

- 今までどおりでいくと、4月・6月・8月の3回しか協議会ができないが、それで27年度中期頃に報告書ができるだろうか。
- いずれ統合するというところで、西部小へ子どもが行かないという現状がある。今、西部小に通っている子どもやその保護者にとって、友達が少ないという環境は非常に残念だと思う。西部小の状況を考えると、統合について早く決めてあげた方が子どものためにはなるのではないかと思う。
- 統合に向けていろいろと協議を行うのはいいと思うが、子ども達がそれによって振り回されているような状況が現にある。しかし、協議はしっかり行わないといけないので、2ヶ月に1回で間に合わないのなら1ヶ月に1回といった形をとり、地域の方達の意見を代表として来られている方がしっかり聞いて、持っていき、議論し、こうした話になったと持ち帰るといったことの繰り返しを当分の間しないといけない。1年間は大変かもしれないが、回を重ねて進めていった方がいいのではないかと思う。
- 中部小も、場合によっては来年度1学級減る可能性がある。この統合は複式学級の解消ということも目的として入っているので、それについて、子どももさることながら保護者の方にも考えていただかないといけない。
- 中部小学校区の年長の子どもがいる保護者からは、統合するのであれば早くしてほしいという声も上がっており、早く進めたいという気持ちはある。だが、先にきちんと決めるべきことは決めないといけない。それが今までの協議会のペースだと難しいのではないかと思う。もし、毎月行うということになると大変になるとは思うが、逆にそうなっ

た方がここで話したことをすぐ地域に持ち帰って話しをしてから1ヶ月寝かせる必要もなくなるので、話も進めやすくなるのではないだろうか。

- まずは目標を決めて、合理的に話をするという気持ちで協議をした方がいいと思う。目標がなく、1年後でも2年後でもいいとか言っていたら論議できなくなってしまう。問題の解決を市や教育委員会にお願いするためにも、できるだけ早く問題点を出し、スピーディに議論していく必要があるだろう。
- 今、ここで協議会を1ヶ月に1回するかについて決めるのは難しいかと思うので、次回話をしたいと思う。日程については意見が無いようなので、27年度中に意見をまとめるという方向で話をしていきたい。
- 何を議論するか、時間がどれくらいかかるかは話を進めていってみたいとわからない。だから、いつまでという目標は定め、議論を密にし、いろいろな意見を聞いていくといいと思う。問題点の中には議論を進めていかないと出てこないものもあるかと思うので、実施計画を我々が納得できるようにするためにも議論を行い、できるだけ早く問題点を出して考えていかなければならない。



第5回地域協議会での確認事項

- ◆27年度中に意見をまとめ、報告書を作成する方向で協議していくこと。
- ◆協議会の実施間隔などについて、次回協議を行う。
- ◆統合に伴う通学支援については、次回校区ごとの意見を発表し、協議を行う。
- ◆第6回の地域協議会を4月30日(木)19:00～20:30、野津原市民センター大会議室で開催する。

<編集後記>

協議会では、協議会の様子を広くお知らせするため、協議会だよりを発刊するとともに、市のホームページにおいても会議の要旨などを公開しています。

今後とも、協議会へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

野津原中学校区適正配置地域協議会だより「第5号」

発行：平成27年3月
発行者：野津原中学校区適正配置地域協議会
事務局：大分市教育委員会教育企画課
連絡先：(住所) 大分市荷揚町2-31
(TEL) 097-537-5903(直通)
(E-mail) kyoikukikaku@city.oita.oita.jp